

10 ムギワラムシ

(ツバサゴカイ科)

兵庫県ランク:A

Mesochaetopterus japonicus

環境省ランク:指定なし

種の概要

本州中部以南に分布する。体長150~260mm。砂質から砂泥質の干潟に生息し、分泌物と砂粒でI字型の棲管を作る。棲管の地表側は20mm程度突出し、砂中には500mm以上潜行している。地中側は閉じているが、シャワーの先端のように多数の小孔が開いている。水中の懸濁物を摂取する。棲管内にはヤドリカニダマシ(その他無脊椎動物Aランク)が共生することがある。近縁のツバサゴカイは県内での確実な記録はないが、より大型になるほか、棲管がU字型であり、両端が地表から突出することで区別できる。

主要な選定理由

人為性			生息環境の特殊性		学術性		
個体数激減	分布域に影響	営利目的捕獲	特殊生息環境	地域的孤立	分布が極限	分布の限界	希少
			○	○			○

県内分布

西宮市、高砂市、姫路市、たつの市、赤穂市

県内における生息状況及びその他特記事項

ランク変更なし。播磨西部では個体群が維持された健全な生息地があるが、播磨東部では個体群規模も小さく、生息地自体が少ない。最近になって阪神地域でもごく小規模な個体群が確認された。

保護上の留意点

本種は主に前浜干潟に生息するため、埋め立てや堤防建設などによって生息域が破壊されやすい。また、懸濁物食者であるため水質の汚染にも比較的弱いと考えられる。安定的で汚染の少ない細砂質の干潟の保全が不可欠である。



写真提供：渡部哲也



※撮影個体は県外産

写真提供：渡部哲也

【執筆者】 渡部哲也